

年頭の御挨拶

全曹青会長 桜井孝順



ガンジス川の日の出

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。全国会員各位の御安祥を祈念申し上げますと共に、輝やかしい新春を迎え、新たな決意を抱き、御教化に励まれることをお祈り申し上げます。昨年度中は、全曹青に対し種々御協力、御支援を賜わりありがとうございました。浅学非才な私が会長就任以来半年が過ぎました。本年は発足十周年にあたります。何卒心強い応援の程お願い申し上げます。昨秋、各地方集会へ副会長・事務局長と共に出席させていただき、多くの友と語る機会を得、全曹青の意義づけを御理解していただくことに努力してまいりました。各地のそれぞれの事情を伺いながら、また特色ある大会運営をされた各地青年会の並々な御努力に感激させられたと共に全曹青の今後の事業及び運営につきましても指針になるものを賜ったように思います。

社会状況は、長びく不況の上に、天災、人災さらに青少年の非行など、二十一世紀を眼前に、平常心を支えるものすら見失っているような今、教化者として、真のやすらぎを求めて、若い情熱を発揮してまいらねばならないと思います。本年度は前期禪のつどい研修で「食」キャンペーンを打ち出し、各委員会においても、家庭教育を中心とした大衆教化への事業展開を考察しております。全曹青が発足以来十年をむかえる今、その足跡を振り返ってみれば、暗中摸索の中にも、一定の方向性を持ち、困難と思われた事業にも英知を持って挑み、「禪」を中核としている日本文化との融合を目指しておりました。魂の救い手としての宗侶へ大衆の欲求が大きく複雑化の進む今、社会要請に接点を求める未来志向の道を宗祖の精神にもどり、さらに釈尊正覚の真理を探求することこそ、新しい青年会活動の礎としてゆかねばならないことでありましょう。それゆえに本年度のテーマである「厳しい自覚で教化の実践」をさらに思考化し、事業を遂行してまいる所存であります。十周年記念事業も、松倉委員長を中心と始動はじめ、理事・評議員の協力を得て、明日の青年会の歩むべき姿を實踐してまいりたい。年頭にあたり、全曹青への一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。この新年の所感と致します。

この過保護時代に、我が子への自立の機会を、とじと耐えた両親にも感服する。入学試験、入社式すら親同伴の現今、「親も耐え、子も耐える」これが真の人間教育ではあるまいか。(平)



第 31 号

発行所
全国曹洞宗青年会

〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務庁内
編集発行 全国曹洞宗青年会
TEL. 03-454-5411(代)

破草鞋

NHK朝のドラマ「おしん」から一日がスタートする。豊かな社会の中で忘れかけている我慢や辛抱の大切さを思い起こさせてくれるドラマである。耐えます、おしん。家康・サラリーマンの言葉を生み出した八十二年、この夏休みに独りぼっちで四国八十八か所の霊場巡りをした中学一年生の少女がいた。一日数十キロも歩き抜く頑張りを見せたが、母親が恋しくて泣き明かした日もあったという。巡り合う人達の「親切」を支えに、十八日間で霊場を完歩、満願したのである。現代版「おしん」ちゃん。この子は、大阪の野村奈緒子さん(一三)である。

二十一世紀の禪の担手

《提言》

特派布教師

池田好雄

高祖大師が「正法眼蔵」その他の著述において、「さとり」の高い境涯をお説きになった反面、「清規」などにみられる日々の行持のしかた、あるいは「典座教訓」や食作法、また太祖大師が師の義介禪師に「黒漆の崑崙夜裡に奔る」と答え、「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」と道得した時に印可されたところなどは、繰り返し参究すべきものと思う。

なぜかというところ、一日の行持行履や喫茶喫飯、また洗面洗浄の日常性が、最も具体的な禪の姿であるからだ。

その喫茶喫飯、平常心についてであるが、某年某月、特派布教である地区を巡回していた時、次の教場は檀家数のうんと多い、いわゆる肉山寺院で、その住職は宗門のお師家さんだ、という話を予めきいて、当の寺に参ることになった。

私はどういっわけか「肉山、檀家が多い」「師家」という言葉をきい

て、快い感情がわいてこなかった。午後からの教場つとめであったが、その日午前も、わりと早い時刻に到着することになった。庫裡の玄関から入って方丈へ案内されると、形通りの挨拶が済み、お茶を一服いただいたところで、お師家老師が、いんぎんにこう言われた。

「随喜寺院が集まり、参集者が見えたところで、もう一度山門頭まで、お出でいただき、本堂からお入り下さい。五盃三拝でお迎えます」。

いやしくも管長名代なのだから、そうしてもらおうのが当然という考え方もないではない。しかし暑いさなかでもあるし、体もかなり疲れているので、辞退を申し出たが、「いや是非に」ということで、時至つて私は法衣に着かえ、山門頭から到着しなおしをした。

如法ならなにごとも如法にやればよいのに、堂頭は改良衣のまま、五盃は打ちかたがちがうし、とも

かく法堂から出て、前に私のカバンが置いてある控室まで、下つてきたところで「はい御苦労様でした」。それでおしまい。

さて、私の部屋は応接間兼物置である。どこだつてかまいやしな

い「管長御名代」だぞ。「お手洗は、ここですか」と奥さんが教えて下さった。私は寝る前に歯を磨く習慣があるので、洗面所を探したがわからない。仕方がないから便所の中の手洗水で用を済ませ、ともかく休むことにした。夜中に目をさますと蚊がいて、仲々眠れないのである。(ここが師家と布教師のちがいだ)

それからうつらうつらしながら朝を迎えて大便所に入ったら、その便所のきたくないこと。参詣者用のものだから仕方がないといえ

ば、そんなのかもしれない。もちろん洗面も、便所の水道を使ってやった。

この住職は宗門でも社会的にも地位のある人で、話してみても

仲々立派であるし、身なりはきちんとしている。しかし、これじゃどうにもならない。檀家を三分の一に減らして本人自身、もう一度雲衲からやりなおしをすべきである。それがいやなら特派の教場などもちろん引き受けるべきでないし、分院を作つて檀家をうんと減らさないとだめだ。

いや、そんなことは私のかかわりあいのないことだから、どうでもよろしいが、禪の中味は冒頭にもべたように、只管打坐を本体とする日常性であり、喫茶喫飯であり洗面洗浄であるならば、このところがきまつておらずして、どうして禪門といえるか、禪寺といえるか、ということだ。

それは、実はこの師家だけでなく、青年宗侶の中にもみられる事柄である。

まず長髪のこと、私は長髪を否定するものではないことを、ここでおことわりしておく。長けりや長くつていいのだ。そのかわり、きれいに長くしたらいい。油をつけて、私がきらうのは約七・八ミリから一センチの長さだ。人差指と中指の二本を重ねた分の長さなら許される、と「剃髪の偈」を作った人がいるそうだが、まことにバカげている。

なぜ、それだけのばしておかねばならぬのだろうか。寺院経済がうるおい、時間的余裕があるので遊びの要素が増えてきたためだろうか。本山から帰つてきて、なお行履をくずさないでいる人と、もう翌日から崩れる人という。宗門の要職についている人が、長髪の衣姿で本堂に出ているのを見るとき、この人が青年僧であるだけ、もうやりきれない気持ちになつてしまふ。

全曹青に期待

曹洞宗青年会の会員諸師には清々と昭和五十九年の新春を迎えられたことと存じます。

本年、早くも創立十周年を迎える青年会ではありますが、昨今の着実な活動ぶりをみるにつけても、宗門の明日に希望を見出す思いがいたします。

何事につけても十年はひとつの大きな区切りであります。青年会においても教化推進のための事業の数々を計画中と聞いております。

さて、団体や組織の区切りの時期において、ややもすると記念事業の遂行に汗を流し、その満足感をもって事足れりとする傾向が見られます。しかし最も肝要なことは、この好時節に会員一人ひとりが、先人の行履を尋ね脚下を照顧することではないかと思量します。

一九八〇年代に入ってから禅寺の門を叩く人が急増加しつつあることはご存知の如くであります。これは現代文明がいよいよ行き詰まり、人間性の喪失を実感しはじめた人々が、禅の中に垣間見える峻厳さに触れる

ことよって、新しい自己発見を期待することによるものと考えられます。換言すれば現代人は禅によって本物に出逢いたい

日常底の弁道

宗務総長 永井孝道



という熱望でありましょう。

本物とはいってもなく真実の人間を示すのであり、それは宗侶自身に他なりません。宗門

寺院の門をくぐった老若男女が、そこに只管打坐に弁道し、綿密に行持を進める僧侶を見出したとき救いは得られるのであります。なぜならば、この日常底の弁道こそ両祖大師がお示しの千載不易の大道であり、禅の真髓に他ならぬと確信するからであります。

ややもすると風潮に流され華美を競いがちな傾向をみるにつけて、これでは現代人の切望については答えられぬまま終るのではないかと苦慮するものであります。

曹洞宗青年会会員諸師は、みな若いエネルギーを横溢しておられる方ばかりのほうです。まさに弁道修行の好機であります。どうか私の意のあるところを賢察され、明日の宗門を担うに足る活躍をされんことを期待して止みません。

次の高祖大師のお言葉を諸師に贈り挨拶とします。

一人真を発して源に帰すれば
十方虚空 真を発して
源に帰す

(永平広鑿二)

黒衣に網代笠で「往来ただ、かちよりゆけ」の言葉に従って、草鞋行脚をされた勝蹟を思うべきである。二祖国師には、むづかしい論理なぞ何一つなかった。言説もなかった。ただ先師に従っただけではなかったのか。

曹青が、これからの活動に、どういう姿勢を向けていくかということ、非常にむづかしい理を、一つ一つふまえていかなければならぬと思うが、禅は黙することであり、黙するというのは日常の行履を、せめて坊さんらしく、形は在家らしくなく、やっつけていかないと、とても廿一世紀の禅を双肩に担ってもらう人にはなりえない。葬式と先祖供養を行なう寺の役割は、ずっと昔から続いていることとで、いま、それを、昔と較べてどうかということになると、葬式法事以外に、坊さんたちが、どれほどプラスアルファしてくれただろうか、を、私は悲観的に思うほうが先んずる。

すべてが曹青だとは言わない。しかし曹青がやらずして、いったい誰が革命家になれるか。あなたが、頭をつるつるにして衣を着て、寺を補佐し、町を歩かないで、だれが禅を二十一世紀にもっていくのか。

山形県東田川郡立川町
見籠寺住職

— ご寺院の豊かな明日をクリエイトする —

私達の仕事は 寺院運営企画・建築・設計・営繕工事
境内・墓地清掃保守管理施工
寺院用品/焼却炉など環境用品販売

●あらゆる相談をお待ちしております!
見積無料 ☎(364)0671~3
法律・会計相談も行ってあります。

— 日本寺院株式会社 —
〒160 東京都新宿区百人町1-13-2

日 程 表

第 一 日 3月3日(土)		
時 間	内 容	備 考
13:00	受 付	
14:00	開 講 式	秦 慧 玉 禪 師 示 御 垂
15:00	法 話	宮崎交保監院老師
16:30	入 浴	
17:30	薬 石	
18:30	講 義 ①	平 山 郁 夫 先生
20:00	夜 坐	
21:00	開 枕	
第 二 日 3月4日(日)		
4:00	振鈴・暁天・朝課	(行茶)・諸堂拝観
8:00	小 食	
9:00	講 義 ②	平 山 郁 夫 先生
10:30	閉 講 式	
11:00	散 会	

都合で一部変更になる場合もございます。



第6回禅文化学林

シルクロードに結ぶ仏教文化

日本画檀の最高峰・平山郁夫先生を迎えて
三月三・四日、大本山永平寺で開催

禅文化学林も回を重ねて第六回目を迎えます。今回は大本山永平寺を会場に開催することに成りました。全国各地で禅のつどいを開催し、二十余年を経過致しました。その間、幾多の方々にも

縁を結んで頂きました。その参加された皆様から、禅仏教をもっと深く、そして系統的に学びたいという声が強くなり、その御要望に応じて、大本山永平寺・総持寺等でこの禅文化学林を開催し、好評を博してまいりました。この学林は知識としての仏教と、行としての禅を共に体得しつ

つ、日本精神文化の中に大きくかわってきた禅仏教の「仏教美術」をとらえて、明日への生活の指針とお互いの知性の高揚の一助となることを願いとしております。特にシルクロードをシリーズとし、昨年は音楽を学び、今回……仏教美術の源流を訪ねて……と題し、その権威者で、日本画檀の最高峰である東京芸大教授・平山郁

夫先生に御出講頂きます。必ずや、皆様に御満足戴けるものと確信致しております。初心の方も、引き続き禅仏教を深められる方も、私達会員一同は共に真心をもって歩む所存であります。一人でも多く御参加下さいます様、御案内申し上げます。参加申込みは、二月十五日迄にお願い致します。

禅のつどい後期中央研修会
仏教セミナーを
地方に分散開催と決定

かつて本会は、五十二年度に仙台(東日本集會)と大阪(西日本集會)に分けて、禅のつどい中央研修会を開催して好評を得たが、今年度は再び、分散して開催を試みることにした。会場は次の通りである。

▼東日本会場
一月三・二・三日 12時受付
福島(磐梯グランドホテル)
郡山市熱海町
テーマ 「食をみなおす」
講師 無着成恭先生
中野東禅先生
参加費 七,〇〇〇円

ある宗教社会学者は、曹洞宗を護持会教団と位置づけた。護持会教団とは、いわゆる護持会的な寺檀関係の組織の中でこそその集団は命脈を保ち得るけれども、寺檀関係を外れた人々にては全く働きかけを持たない教団を意味する。

私達は、教化を使命として毎日を生き、必ずしもこの類型化を首肯できるものではないが社会全体としては、かくなる判断がなされていることを認識せねばなるまい。さらに護持会教団の範疇に含まれない活動があることも忘れてはならない。昭和三十一年に伊東、

宗侶自らの熱情を注いで

松月院を原点とする禅の集い運動がそれである。

青年宗侶の自らの熱情と下からの盛り上りで全国に広がったこの運動は地道な活動を通じ現在に至っている。この運動の中から私達が見出したものは、寺檀以外の青年との接触であった。全く新しい発想、全く新しい教化の場を私達の先輩の青年宗侶の手によって創造され、更には、私達の手によって、またまた新しい教化の場さえ創造出来るという可能性である。

昨今の社会情勢は、全人類を救済しうる宗教を渴望し、二十一世紀は心の、宗教の時代となろうと予想している。正伝の仏法の継承者、宗教者の任務は大なるものを痛感するのである。かかる社会情勢をふまえ、ここに曹洞宗青年会の結成を願うのである。

禅の集い運動が起った当時の状況を考えるに、宗門白書が発表され、革新政策が論議されていた時代であり、創価学会を始めとする新興宗教の爆発的な成長期にあって、寺院経済、宗学教化の危機を感じさせた時期であった。か

かる危機は二十年を経た現在も何ら変っていない。護持会教団曹洞宗たる評価を謙虚にうけとめ、次の事項を提起したい。

- 1 護持会教団からの脱皮を
寺檀関係の中のみ教化の対象を求めるのではなくして、新しい社会の中にチャレンジする。
- 2 青年宗侶よ手をよごせ
どの様にすばらしい美田でもどの様にすばらしい稲の穂を蒔いても、やはり収穫をうるためには、私達らがアゼの中に入り、田の中に入り、手をよごし足をよご

さなければ収穫を得ることは出来ない。

3 青年よ対機をいだけ

よくよく考えてみると私達には、自分の手でつかみとった対機というものも存在せず、先祖伝来の檀家という対機がただ眼前にあるだけに過ぎない。檀家という対機をも含めて、新しい対機をつかんでいく運動をすすめよう。

4 禅の集い運動の原点に帰ろう

前述の三つの提起をふまえた形で展開されたのが禅の集い運動であったことを再確認し、新しい運動の出発点としないといけない。

以上四点を曹洞宗青年会結成への問題提起とした。曹洞宗青年会設立に際して、様々な問題、例えば旧来の曹青連各地域に結成されている単位曹青との関わり等が残されたままであるが、全国組織の曹青を組織することへの障害とはならないと信ずる。私達が目指すものは、組織ではなく、青年宗侶の団結の力でもって、現代社会の要求に応える運動を自らの手で、創造し推進していくことにあることを最後に銘記しておきたい。

参加人数 一〇〇名

▼中央会場

三月二九・三〇日 1時受付
神奈川(最乗寺)
〈南足柄市大雄町〉

テーマ 「母と子の
ちかいのつどい」

講師 無着成恭先生
沼田曜一先生

参加費 一、〇〇〇円

参加人数 一〇〇名

▼西日本会場

二月九・一〇日 1時受付
京都(宗仙寺)
〈京都市下京区高倉通〉

テーマ 「これだけの
あなたの食卓」

講師 辻嘉一先生
中野東禅先生
兵藤ゆきさん

参加費 一〇、〇〇〇円

参加人数 一〇〇名

従来は禅のつどい研修会に加えて、講師を迎え、仏教セミナーを併催してきたが、今回は、《食》を主軸テーマに、各会場とも地方色を生かした研修会を行なうことにしている。
各地区へは、追って連絡されるが、一人でも多くの御参加を願うものである。

特典

「故事成語
ことわざ事典」
石田博編
A5判・900頁・上製函入
お買上げの方に贈呈!!

精進料理の真髓を今につたえる集大成
雄山閣出版65周年記念出版
精進料理大事典 全5巻 仏教料理研究会編

体裁 A4判(210×297)
豪華箱入
平均 200頁
布クロス装帳
天金仕上げ
現金価格 80,000円
(便利な分割払いもあります)

東海大会(愛知)

風外和尚の足跡を尋ねて

第七回東海大会「風外和尚の足跡を尋ねて」は、十一月十五日、十六日の両日、快晴に恵まれて盛会裏に円成しました。総決算約六五〇万円でした。

今大会は、風外本高和尚(一七七九―一八四七)が愛知県足助町の香積寺に入山されて丁度一五〇年になりますので、この機会に風外和尚を顕彰しようと企画しました。

十五日は、紅葉で有名な香風溪の内にある香積寺を会場にして「風外和尚遺墨展」を行いました。香積寺様はじめ、地元の皆様のご協力により、六十点にも及ぶ出陳があり、貴重な作品に接することが出来ました。

また、午前中に、香積寺法堂に於いて、三重県の正覚寺様が奉納された、風外和尚の御木像の開眼法要が厳修されて、一層意義深いものになりました。

午後は、愛知青少年公園講堂に於いて、宗務庁発行『たこ風外』の著者、田中忠雄先生の「記念講演」がありました。風外和尚の偉大さを知って、一般の方々も大い

に感銘を受けた様子でした。

今大会の事業の特色の一つは、風外和尚の行履の跡を訪れて、その作品や、伝承を求めたこととです。そして、その作品百数十点の中から五十点を写真集とし、また、数名の方に著述をお願いしてエッセイ集とし、これを合わせて小冊子にして記念出版しました。さらに、一般の方々にも親しんで貰おうと、風外和尚遺墨のカレンダーも作成しました。各三千部作りましたが、共に好評で全部売り尽くしました。初めての企画で不安もあり

東北大会(山形)

東北八曹青を一巡した記念大会

開催地の米沢は、紅葉の盛りだった。十月二十九日(土)と三十日(日)の二日間、ホテルサンルート米沢で行われた。

四階の会場であるホールの中央正面に「今こゝに実を結ぼう、信頼と連帯の輪を東北に」と、テーマが掲げられていた。

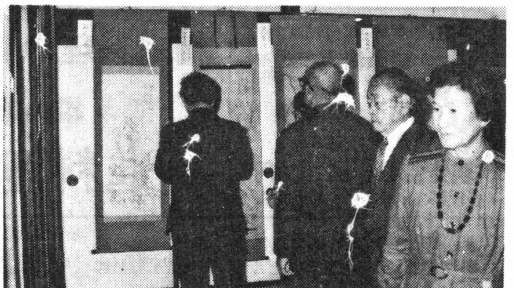
りましたが、各地方からの求めもあり、供給出来ない分もありました。お詫び申し上げます。

なお、一般の参加者については、各地区からバスツアーを計画したところ、十六台のバスが集まり、約八百名の参加がありました。加えて、地元の方々や遠方からの参加もあり、素晴らしい天候と美しい紅葉のもとで、秋の一日を十分に楽しんでいただき、予想以上に盛大でした。

十六日は、蒲都市宮グラウンドで、第五回東海曹青ソフトボール大会

午後三時より開会式となった。

東北曹青会長の榎引章三師が導師をつとめ、実行委員長の伊藤直俊師の歓迎の挨拶等があった。中で坐布設置運動を積極的に推進してきた清水正範師と、新聞「擡頭」の編集者として、大いに手腕を発揮した菊池裕光師に、記念品が贈



を行ない、スポーツを通してお互いに親睦を深めました。なお、今大会は岐阜チームが、奇跡の逆転で優勝しましたことをご報告申し上げます。

呈された。

四時より、分科会に入った。一班は「東北曹青の事業について」、これから東北曹青にのぞむ事業は何か。東北曹青の事業のあり方。三班は「東北地方集会のあり方について」―過去七回の地方集会は我々に何を残したか。もう



一度振り返って見て、新たに地方集会のあり方を問う。とのテーマをもとに、それ、A・Bのグループに分かれ、活発な討論を行なった。

その結果、全体会で過去七回の反省、特に内容・会場の設定・参加費の問題・今後の地方集会の課題等について、一応意見が集成され、今後の指針を見出した。

東北福祉大学々長が、大学での教育の特質、いわゆる社会教育の必要性・会館建設の予定などを話された。

全員で記念撮影を了ませた後、懇親会となり、豪華な料理と地酒に舌鼓をうち、夜の更けるのも忘れて、親睦を深めた。

二日目の早朝は雨だった。吐く

息は白く、冷え込んだ。

しかし、九階のスカイラウンジで朝食を頂く頃には、陽が射してきた。眼下の米沢の町が、朝日に輝やいた。

八時三十分より再開された。全曹青会長の桜井孝順師が、全曹青の今後の方針、即ち、事業報告とこれからの活動、協力要請を説明した。それは禅文化学林・禅のつどい中央研修会の開催、Tシャツの販売・家庭訓の発行・特別事業としての十周年記念大会の実施・講演集の出版などについてであった。

参加者はかなり関心をもって傾聴していた。

決議文案が、東北曹青会長より朗読され、採択された。

その決議文は、「今までの大会で、真摯な思索と大いなる前進を誓い、青年宗侶としての自覚と実践を重ねて来た。

今後は、この実績を踏まえ、飛躍の原動力として、更に信頼と連帯の輪をひろげ、発心を新たにし、研鑽したい」という主旨だった。

九時三十分閉会式となり、置賜曹青会々長の伊藤直俊師が、謝辞を述べた。挨拶をしていると、この大会開催のために、あらゆる準備をし、力を注ぎ、寝食を忘れて没頭して来たことが、脳裏に去来したのであろうか。感慨無量の

様子であった。

次期開催地は岩手県となった。緒子が、置賜会長から、岩手の菊池裕光会長に手渡された。

菊池会長は、是非とも来県して欲しいと、招聘の言葉を述べ、閉

近畿大会(大阪)

接心会と講演の集い

会となった。

このようにして、約一五〇名の参加者を集い、熱気溢れる東北大会は、幕を下ろした。

十時三十分より、ホテル近くの市民文化会館で、一般市民にも呼

去る十一月十七日(木)より十八日(金)にかけて大阪市天王寺区鳳林寺を会場として全曹青近畿地方集會を開催した。特に此度の集會は大阪曹青の結成二十周年の記念行事として「接心会と講演の集い」と題して行なわれ、これに近畿地方集會を兼ねての開催であった。

十七日正午より受付がなされ開講式二十周年記念セレモニーのあと記念講演として「曹洞宗の年中行事」と題し、講師に大谷大学名誉教授五来重先生を迎え延べ三時間わたり講演がなされた。

この記念講演には大阪管内の寺院をはじめ一般の方々にも呼びかけられ、全曹青本部代表及び京都曹青、但馬曹青からも遠路多忙の中を参加いただき約六〇名の受講者があつた。残念なことは時間帯が悪かったのか一般寺院の聴講者

が少なかったことである。念の為受講は無料であった。内容としては曹洞宗の行事を中心に他宗のもかみ合わされての講演で大変有意義なものであつた。一つの行事をとってみても判っている様であるが実際ははなれ解釈をしていたり、うやむやに済まされていたりして結構勉強になった。質疑応答も大いになされたが、もとよりこの程度の時間で語り尽されるものではない。ともかく身近な事だけに受講者全員興味津々であつたことは大成功と喜ぶべきであろう。

講演が終り薬石のあとといよいよ七時から二十周年記念接心会にはいった。この接心会には青年会員が法堂を坐堂にして全員只管打坐、警策の響きも処々に聞かれ経行をはさんで九時の開枕まで二柱の接心を如法に身を以って行じた。特にこの日は日本列島に寒冷

びかけての落語家・三遊亭円樂師匠の「笑いと人生」という演題で講演会もあつた。師匠のおもしろ可愛しく、時にホロリとさせられる人生観に、聴衆は耳を傾けていた。



前線が停滞し然も強風まで加わつた為霧囲気はまさに本山並みで思わずえり元をちぢめてしまつた。然し会場は大阪のど真中、会場選定はあらゆる条件を考慮して設定されたがいくら本山並みの雰囲気といったって限度がある。場外の騒音のひどさは筆舌に尽し難いものがあり、窓をあければいや

応なしにネオンの点滅が目にしみる。

坐禅にとつては非常な悪条件下である。我々の日常はこの騒音と共に法務に寺務にと精進している毎日であるので免疫性がある為か

苦にはならないが、もし急に「本来の面目什麼生！」とやられたら、思わずハッと我に帰るといった様な多忙な毎日を平素から強いられるのだ。この接心会案が出た時、会員全員一人として異論を差

しはさまなかった。開枕後、全曹青からの伝達、ミーティング等があり親睦も寒さの為早々に切り上げて就眠、翌日五時半振鈴、晓天坐、略朝課、小食、作務と時は刻々と移り再び只管打坐二炷、終って大解静。閉講式をして昼食後解散された。

接心会としては物足りない短い接心会である。もしかすると「こんなものが接心会といえるだろうか」と疑問視する人がいるかもしれないが、やっただけの価値は充分あった。我々は閑忙にかかわらず時と坐を同じくして互いに騒中に寂を味わい坐に親しめた有意義な文字通りの接心が出来たと心から満足している一人である。

そんな坐禅中に内山興正老師の「生死法句詩抄」の提唱がなされた。残念乍ら録音による提唱である。老師の日程とが合わずその様

になったのである。録音能率が悪い為に多少聞きづらい面もあったが不思議と耳は老師の言葉を追っていた。とにかく大変すばらしい研修が出来たのではないかと思う。我々はこの二十周年を迎えたこ

関東大会(茨城)

禅の流れの中に……

昭和五十八年十一月二十六日から二十七日にかけて、私たち茨城県曹洞宗青年会は、当会が主催する、茨城緑蔭禅の集いの十周年記念大会と、第七回関東地方集會を開催いたしました。

関東地方集會は、禅の流れの中に、というテーマのもとに、中国から日本へ、そして茨城という地

とに對して、喜ぶというよりむしろ記念すべきことにあることを肝に銘ずべきであろう。幾周年を経ようとも一年は一年である。この一年は消すことの出来ない過去に生れ変わる足跡であり未来への足が

かりとなるものなのである。絶えず入れ替わる青年宗侶の世代社会に在って記念すべき事とは一体何であろうか、いろいろと思いをめぐらすこともまた記念ではなからうか。「本来の面目、什麼生！」

方へどの様に伝播してきたかを、二人の講師にお話を願いました。中国禅宗史を駒沢大学宗学研修所の永井政之師に、そして日本に入り、茨城の中でどの様に広まって

いったかを、我々の仲間であり、宗研の佐々木章格師に、お話をさせていただきました。限られた時間ではありましたが、二師の講演を、関東各県から集えられた諸兄が熱

北陸大会(新潟)

「瑩山清規」の研究

去る十一月十七日より十九日まで、新潟県曹青恒例の秋季研修に併せ、北陸地方集會が開催された。新潟県曹青の秋季研修は、毎年大栄寺僧堂を会場に、三日間の僧堂安居という形で継続しており、「赴粥飯法」「弁道法」という様に毎回提唱・講義等を中心テーマを設定して実修しているのであるが、本年は「瑩山清規」を中心として修

行された。ただ、地方集會という内容から

僧堂経験の有無にかかわらず、大栄寺の安居僧と共に修するのであり、提唱、講義の他、晓天、朝課、夜坐等はもちろん、僧堂における行鉢に作務、托鉢(本年は荒天の為中止)と内容は実に豊かである。今回の参加者は二十数名と決して多くはなかったが、数の多少では言い得ぬ意味深い研修であった。

心に聞いて、勉強しているのが印象的でした。そして、二十七日の午後から、十周年記念式典の後、亀城プラザというホールで、無着成恭先生をお呼びして、日本人の心と文化という題で、現代における禅を語ってもらいました。今までの参禅者、地元土浦の方々にも呼びかけをして、四百人入るホールがほとんどいっぱいになる様な盛況でした。この様に成功に終った、両大会でありましたが、益々自分たちの研鑽をおこたらず、青年会活動を充実していきたいと思っております。

全曹青推薦!



紹介コーナー

お焚上げの
水子地藏

正価 五、〇〇〇円
青年会価格 四、〇〇〇円
千葉県松戸市古ヶ崎三三三
五九一二二
〇四七三(六七)七三〇七
法友 全曹青係

これは便利、持ち運べる
無線電話
品質保証

正価 一三八、〇〇〇円
青年会価格 四八、〇〇〇円
注文先 本会事務局

リコー(普及機)
拡大縮小コピー
FT=三〇五〇

正価 六二八、〇〇〇円
青年会価格 五一五、〇〇〇円
注文先 本会事務局

リコー(高級機)
拡大縮小コピー
FT=四〇六〇

正価 七九八、〇〇〇円
青年会価格 六五四、〇〇〇円
注文先 本会事務局

五十音ペンタッチ 三二〇S
ワードプロセサー

正価 一、〇六八、〇〇〇円
青年会価格 九〇〇、〇〇〇円
注文先 本会事務局

カナ、漢字キー 三一〇D
ワードプロセサー

正価 一、二五〇、〇〇〇円
青年会価格 一、〇六〇、〇〇〇円
注文先 本会事務局

東北曹青推薦
塔婆立(木目仕立)

青年会価格 二〇、〇〇〇円
秋田県平鹿郡平鹿町字鍋倉
永蔵寺内
〇一八二二(四)三〇三八
東北曹青塔婆立特販委員会

本皮革全面使用(黒)
法服用カバン

青年会価格 四八、〇〇〇円
東京都豊島区西池袋三二二五
一三三リパーストーンビル七
階 〇三(九八三)〇八九一
オーシャン物産全曹青係

東北曹青推薦の
坐蒲

青年会価格 二、五〇〇円
宮城県名取市増田 耕竜寺内
〇二二三八(二)三六四一
東北曹青坐蒲設置運動委員会

除雪、除草用バーナー
女性にも容易につかえる
スーパーフレーム

正価 二五、〇〇〇円
青年会価格 一〇、〇〇〇円
注文先 法友全曹青係(前記)

原付免許で乗れ、月まいりに
便利な、リッター四五キロ
省エネカー

正価 四七〇、〇〇〇円
青年会価格 四四五、〇〇〇円
東京都新宿区四谷三丁目一番
斉藤ビル四階
〇三(三五五)二三八一
サン貿易(全曹青係)

写経と法話

正価 三、九〇〇円(送料共)
三、五〇〇円に
東京都千代田区西神田二二一八
谷口ビル〇三(三九三七五)〇
株式会社出版開発社全曹青係

2台で1セット

●使用時・高さ75cm×開口60cm×奥行40cm
●収納時・タテ85cm×横60cm×厚サ8cm

- Aタイプ 55,000円 (ハト返し有り)
- Bタイプ 50,000円 (ハト返しなし)

●1台のみの場合は半額 ●色は、黒色
溜色・朱色

■申し込み資料請求はハガキにてどうぞ。

株式会社 サヤック インターナショナル・ジャパン
〒183 東京都府中市浅間町4-3 電話0423(69)2431

折疊焼香台

- 〈御用途〉
- 屋外供養
 - 前卓など
 - 本堂焼香
 - 説教机
 - 墓前供養





福島曹青20周年を祝う

—インド仏跡パネル展に

一六〇〇名が入場—

曹洞宗福島県青年会創立二十周年を祝う記念式典が、十一月十一日午後五時より郡山ビューホテルにて盛大に開催された。式典には正会員、OB会員の他、宗門関係青年会関係、協力団体などの来賓、招待者を含め百三名が列席、共々に二十年の慶賀を祝すと共に、今後の会の発展と相互の精進を誓い合った。

また記念事業として、「体験ノ禅の世界とインドの仏跡を訪ねて写真パネル展」は、十一月十一日より十三日までの三日間、郡山市第二うすいデパート8階催事場を会場に開催された。

一般大衆の布教教化につながる内容を検討し、特設禅室における禅の指導と、パネル写真による釈尊の生涯を普遍することを目的として取り組んだ事業に、千六百人の入場者と二百名の坐禅参加者が

すると共に、企画次第では多数の大衆を動員することができることを実証したことになる。

んだ記念事業は、これからの可能性に光明を灯して大成功の中に無事円成した。

青年授戒会を開催

愛三曹青会

曹洞宗愛知県第三宗務所青年会は、去る昭和五十八年十月十八日二十日の三日間、大本山永平寺副貫首・丹羽廉芳老師を戒師さまにお迎えし、刈谷市・松秀寺に於て、戒弟約二〇〇名、青年会会員参加四〇名、随喜寺院二〇名にて、「研修授戒会」を修行した。

間をとり、三日間にわたって、戒師老師によるありがたいお話を聴聞できたことである。

あり、当初の予想を大きく上回り関係者を喜ばせた。この事業を振り返ると、現世においても禅を求め仏教に深い関心を示す人々が多いかを示唆

特筆すべきは、説戒に充分な時

また、説教師には教化研修所講師の中野東禪師をお願いし、全曹青発行の『仏教の生活ハンドブック』をテキストにお話をしていただいた。テキストがあつてのお説教はわかりやすいと好評であつた。

四国地区曹洞宗青年会結成される

謹啓 晩秋の候 御尊台におかれましては益々御健勝にて御接化の段慶賀に存じ上げます。扱て、この度の四国地区曹洞宗青年会結成大会並びに大会記念梅花流奉詠大会も盛会のうち開催することができました。

これも、偏に皆様の御支援の賜と深く御礼申し上げます。尚、今後は会員の勧募を推進し本会の充実をはかりますとともに地区内青年宗侶の力を結集し、当地区宗門の発展と教化活動に寄与する覚悟でございます。今後共より一層の御指導御鞭撻を賜ります様謹んでお願い申し上げます。時節柄御法体堅固と御自愛の程を心より祈念致します。

昭和五十八年十一月吉日

四国地区曹青会

会 長 (内子・高昌寺)

高 嶋 武 彦

四国地区曹青結成大会

実行委員長 (大洲・法華寺)

他 土 居 孝 顕
役 員 一 同

注文仏像・紫檀製仏具・大木魚・大鑿子

株式会社 宗像商会

本社 東京都東村山市富士見町3-2-17
〒189 0423 (95) 8 5 0 5
盛岡営業所 盛岡市中橋通り2-4-16
〒020 0196 (54) 2 9 1 6

— 特 価 ご 案 内 —
“雲中供養菩薩像13体一組”

1. 150万円
 - 1) 一体12万円×13体 =156万円
 - 2) 単体注文の場合 1体15万円
2. 紅檜材—2寸度
ノーペーパー仕上
3. 大きさ 1.5尺~2.0尺
4. 安置方法
 - 1) 壁掛式
 - 2) 置物
 - 3) 欄間組込み

どうぞお気軽にカタログをご請求下さい。

58・7山陰大水害

「被災地の子供たちに
本を贈る運動」協力依頼

石見曹洞宗青年会

「昭和58・7山陰豪雨」について、全国各地より、暖い御見舞の義援金や救済物資を御惠贈下さり有難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

各位からの御厚情を受けて、被災後の二ヶ月半、「石見曹青」は、これら救済物資を、家屋を損壊し生活の基盤を失った被災者に直接配布しながら、復興に微力を注いでまいりました。しかし、激甚災害は、島根県西部(石見地方)の山間部の過疎地に集中しているため、過疎化に拍車がかかるのではないかと懸念され、災害後遺症の克服には、多年の時間が必要であります。

家財道具のほとんどは流失し、子供たちも学用品や勉強机を失ってしまいました。幸い、災害救助法に基づき、教科書と最低限の学用品については、行政から支給を受け、元気に学校で勉強を始めていますが、肝腎の学校の相当数が被災し、壊滅に近い打撃を受けた学校も何校あります。これら学校施設の復旧は、当然、行政の責任において行われましようが「図書

その他
一般向図書の寄贈があった時は、福祉施設等に贈呈します。

「私たちと仏教」

館」の整備までは、当分、手がまわりそうにもありません。各家庭も、家屋の復旧と、土砂に埋った田畑の整備に全力を注がねばならず、とても、子供の絵本や童話を買って与える程の余裕はありません。

被災地に本はせいたくだ——という意見もあるかも知れませんが、

しかし、私たちは、村中、町中から「本」を奪われてしまった被災地の子供たちに、絵本や童話などの本とおして、美しいメルヘンの世界をプレゼントしたいのです。私たち、石見曹青は、このような観点から、「被災地の子供たちに本を贈る運動」を提唱し、推進することにいたしました。

なにとぞ、私たちの運動の趣旨を諒とせられ、絶大なる御支援を賜われますよう、伏して御懇願申し上げます。

合掌

○対象図書

幼児向図書……絵本その他
小中学向図書……年鑑、図鑑、辞典、地図、参考書、童話、伝記、少年文学、歴史、紀行そ

昨年六月、新潟県曹洞宗青年会、長生青年会共催で長岡市において「仏教セミナー」を開催した。「仏教は社会の要請に込えているか、社会は仏教の期待に込えられるか」なるテーマを据えて、若林繁太、水上勉、草柳大蔵、浦原宏、稲葉修、勝間田清一、奈良康明、青山俊董の八氏を講師にむかえ講演とシンポジウムを開いた。本書はそのときの講演記録を一冊にまとめたものである。

水上勉氏の講演記録が都合で掲載できなかったのは残念だが、それぞれの分野の第一線で活躍している講師陣の、体験と思索に基づく仏教との出会い、かわり合い、仏教に求めるものなどが、興味深く、熱っぽく語られている。

「葬式仏教」だとか「観光仏教」だとかと批判のかまびすしい昨今、この講演記録を通して、現代社会と仏教とのかわりや、日常生活に深く根を下ろしている仏教の在りようを考えてみることも、決して無駄ではあるまい。

新しい時代に生きる青年宗侶の

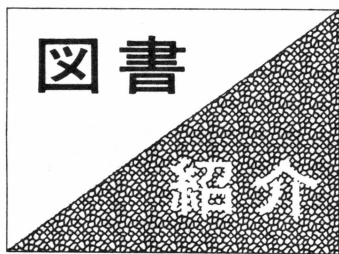
※送付先 千六九九―三四
島根県那賀郡三隅町下古和
三隅小学校気付

在り方にも貴重な示唆を与えてくれるに違いない。

春秋社刊、B6判、二三三頁、定価 一、六〇〇円

『茨城県曹洞宗寺院誌』

茨城県内の曹洞宗寺院について、その詳細を収録した『茨城県曹洞宗寺院誌』が、茨城宗務所(所



長秋元義雄より発行されました。内容は次の通りです。

第一寺院要覧 県内の現存寺院二

〇二カ寺および廃寺一〇六カ寺の合計三〇八カ寺について、その山号・本寺・世代・由緒・伽藍・尊像・行事・交通等を収録。

第二寺院本末系譜 県内寺院を中心とした本寺・末寺を系譜で紹介。

第三現住法系譜 永平道元より現住までの入法を系譜で紹介。

第四開山法系譜 県内主要寺院の開山の法系。

第五寺院年表 県内曹洞宗寺院に関する事項と関連事項を年表化したもの。

第六指定文化財一覧 県内の曹洞宗寺院が所蔵管理する文化財のうち、国・県・市町村指定のものもを収録。国・県指定の文化財には説明を加えた。

第七行事一覧 県内曹洞宗寺院において、現在行なわれている年分・月分・週分行事を収録。

第八茨城県選出曹洞宗歴代宗議会議員一覧

第九曹洞宗茨城県宗務所歴代役員一覧

巻末には参考文献、解説をはじめ、寺名・人名・現住法系譜の索引を付した。

B5判、三三六〇頁、布クロス装

箱入。定価 七、〇〇〇円(送料込)

申し込み先 千三〇〇

茨城県土浦市文京町一―二七

神龍寺内

曹洞宗茨城県宗務所

(〇二九八―二二一〇三二)

事務局だより

◎十周年記念式典・事業

結成十周年を迎える本会は、記念の式典と事業を実施すべく、特別事業委員会を組織して準備をすすめているが、実施内容について具体的案件が審議され、左記事項を実現すべく更に検討が加えられることになった。

●記念式典の開催

十一月十六日・東京グランドホテルを予定

●特別功労者

単位曹青等の表彰

●記念出版(講演録)

各地方集会にて講演された著名人の講演内容を収録

●特別記念事業の開催

◎OB会結成の動向

十周年記念に向け全曹青OB会の結果の動きもみられ大変心強く思います。

◎前期禅の集い中央研修会

昭和59年度

総会日時決る

5月10・11日

於 宗務庁研修道場

五月十一日、総会と併催し、今後の教化活動の指針となるテーマにて講演を行う予定です。

◎第七回禅文化学林

結成十周年記念事業と併設させ、シルクロードに結ぶ仏教文化の最終研修が開催される。

昭和六十年二月十三日から十九日の六泊七日間、中国は、阿育王寺・天童寺、桂林への海外仏教化交流を予定している。

◎事務局員パトントッチ

一年余、本会の事務局員として会務を円滑に遂行していただいた渡辺宗孝宗務庁書記が、本年一月の人事移動で総務部福祉課に移られました。

「大変お世話になりました。」

なお後任事務局員として、ベテラン書記であります吉成元明君が青年会事務局を担当することになりました。

りました。

「よろしくお願い致します。」

◎「曹青通信」

地方のニュースを豊かにすべく「ボイス・オブ・ローカル」を設けています。地方の会活動、ユニークな意見がありましたら電話でも手紙でも結構です。情報をどしどしお寄せ下さい。

事務局日誌

10月7・8日	事務局 特別事業委員会	11月11日	福島地方集会郡山
10月18・20日	研究委員会 事業委員会	11月15・16日	東海地方集会
10月29・30日	広報委員会 愛知第三曹青会 研修授戒会	11月17・18日	香積寺(足助)
	東北地方集会 事務局(米沢市)	11月17・19日	事務局
		11月17・18日	研究委員会
		11月17・18日	事業委員会
		11月17・19日	特別委員会
		11月19・20日	北陸地方集会
		11月26・27日	大栄寺(新潟)
		12月12・13日	近畿地方集会
			鳳林寺(大阪)
			四国曹青結成大会
			松山にて
			関東地方集会
			神龍寺(土浦市)
			事務局 理事会
			特別事業委員会
			研究委員会
			事業委員会
			広報委員会

入会のご案内と会費納入のお願い

宗侶としての生甲斐を確かめ、心から話し合える場に参加しませんか。18才以上の宗侶は、誰れでも入会できます。40才までの方は、正会員。40才以上の方は賛助会員として参加していただきます。

会費は年額 一、〇〇〇円

賛助会員は一口 一、〇〇〇円です。

本年度も総会を開催し、会員各位のご協力により、事業計画にそってスタートいたしました。

前年度まで二一〇〇余名の会員が登録されておりますが、会費未納の方が多数あります。どうか全曹青発展のため会費納入をお願いいたします。尚、地区単位曹青にてまとめて納入のときは、納入会員名を書き添えてお願いします。

又、事務局台帳の充実を期するため、振替用紙裏面かハガキ等にて生年月日、住所、寺名、地区曹青役職等なるべく詳しく書き添えて、事務局宛にお送り下さい。

寺院専門の書道用具店

その他中国美術工芸品



◎ 当店には塔婆専用開発した非常に木に強い毛切れのしない筆があります。

静岡市新川2-9-31 TEL:0542-81-8005